



2007年7月25日発行 通巻第94号
発行 佐賀県 西松浦郡 有田町 黒牟田 しん窯青花
電話 0955-43-2215 FAX 0955-43-2889
URL <http://shingama.com/shingama.html>
E-Mail Address sei ka@po.saganet.ne.jp
発行責任者 梶原茂弘

第九拾四号

青花まつり ぎやらりいふじ山15周年祭

9月19日(水)から23日(日)まで、青花専門店ぎやらりいふじ山(佐賀市:TEL 0952-25-1877)で開かれます。

ぎやらりいふじ山はしん窯当主の妹で、佐賀市のお客様に実家の器をけなげにPR・販売しています。ちなみに、弟の青磁作品も並べてあります。フジヤマビルの新築に伴い、1階フロアを一部青花と茂正の専門店へリニューアルし、隣にコーヒー喫茶を併設。ギャラリー兼多目的ホールへ変身しました。特にギャラリーは毎週催事が変わり、佐賀から頻りに文化発信されています。すでに今年15周年を迎え、佐賀市唯一の専門店としてお客様に喜ばれ、私達作り手との架け橋になって貴重な情報源となっています。福岡にもぜひ欲しいと夢だけは見続けている今日この頃です。

第9期陶芸教室募集

来月26日(日)開講式。9月1日(土)より9:30~12:00、14:00~16:30、18:30~21:00の朝・昼・夜コースに分けて開催します。それぞれ10名の生徒さんを募集しています。

8期連続の生徒さんもおられて、教室に来るのが楽しみで健康のバロメーターであると言って下さるお客様もいて、陶芸教室の思わぬ効果をかみしめています。また、新しい生徒さん達との出会いも楽しみで、講師の職人さん達も思わず顔がゆるみっぱなしです。

しん窯陶芸教室の自慢は、昔ながらの登り窯で薪を燃料とした素朴な窯焚きです。ガス窯と登り窯の焼成の違いが感じられるようになれば、もうそれはやきもの通です。ますます味わい志向になっていく昨今ですが、薪という自然の燃料から醸し出す釉肌の雰囲気をとくにご覧下さい。

有田焼業界の一本化

有田焼業界は、生販分離の商習慣が伝統で生成発展してきました。そこで、窯元の工業組合と陶芸作家協会、商社の直売組合と卸商組合、そして集金業務を委託する共販組合があり、その関連産業として陶土組合、資材組合、錦付組合など多士済々です。

これらを一体化しようと、約30年以上も前に知識集約化事業の一環として大有田焼振興協同組合が誕生し、有田の窓口として活動してきました。しかし、会費不足で国や県や町の補助事業に頼る事が多く、いつの間にか債務超過に陥っていました。そして一旦解散をしてもう一度健全な一本化の道を探ろうという合意で、大有田焼振興協同組合は解散手続きをとりました。今年3月31日で事業は打ち切りました。今月7月31日、全組合の解散をとって新生大有田焼振興協同組合の誕生の予定でしたが、あと一週間しか時間がありません。残念ながら、静かに見守るしかありません。

外から見れば、有田のまとまりのなさ、有田の内紛のように映るかもしれません。しかし、将来の有田へ向かって、業界人ひとりひとりが真剣に考えている事は確かです。有田としん窯。誰もが、この密接不可分の間柄の中でどちらも発展する道を模索しているのですが、妙案がありません。小さくてもきらりと輝くARITAへ、しん窯へ、若者へ、夢の持てる産業へ育てていくのは、私達の義務であり責任なのですが…。

万華鏡から万年筆

(有)佐賀ダンボール商会の副社長石川慶蔵氏は、異業種交流によって有田の販路と新商品開発事業所を設立して、第1弾の万華鏡のヒットから約2年、今年8月に有田焼万年筆を発表されました。文具界の大御所丸善、万年筆業界の大手セーラー万年筆と、有田の窯元香蘭社、源右衛門さんの融合作品です。1本15万円～25万円と超高級ですが、有田焼の付加価値満載です。

私もどうしても1本ほしくなりました。

職人さんのひとりごと

～第10回・山本康郎さん～

私は、平成15年5月に入社、社長とはふたいとこです。現在窯積みをさせていただいています。入社と共に新しい窯になり、5年目になります。

今から夏本番。暑くなり、窯場での仕事は扇風機は使用できず大変ですが、私にとってはダイエットができると共に、汗を出し仕事にがんばり、10月頃にはスマートになる事を願っています。

趣味はドライブです。横に乗ってくれる彼女を募集しています。

皆さまよろしくお願ひします。

